

ちよっとそこまで ～お散歩日和 (地域編)～

愛染院 (その2)

春日町の愛染院パート2です。

年の瀬のイベントの一つに「除夜の鐘」があります。ここ愛染院では、その鐘を一般に開放して撞かせてくれるので、興味ある方は是非訪れてみてはいかがでしょうか。

当日午後10時半から現地で整理券を配布しています。

初詣でという、一年の感謝を捧げ新年の無事と平安を祈願する年中行事を次の世代に継承するためにも家族揃っての参拝をお勧めしたいものです。ついでに言うと、高野台駅前の長命寺でも撞かせてもらえます。近隣にこうして一般開放している寺院が複数あることはとても貴重だと思います。

さて、その愛染院鐘楼の土台がユニークです。梵鐘自体は1701年(元禄14年)に木村将監安継(しょうげんやすつぐ)によって造られたもので、区内最古のものです。木村将監とは江戸神田で開業していた鋳物師の名前です。そうそう、元禄14年と言えば、浅野内匠頭が吉良上野介を刃傷に及んだ年です。その翌年の12月14日が討ち入りです。



面白いというのは、その鐘楼の土台となる基壇(きだん)が沢庵石で築かれていることです。梵鐘以外の鐘楼は1980年(昭和55年)に造営されたものです。この時、地元の春日町を始め、向山(こうやま)、田柄、貫井地区の農家が、1軒につき3個ほどの沢庵石を持ち寄ったところ、大小500個余の丸石が集まったそうです。その石を高さ約3m四方に石垣状に積み上げて造営したと言います。

このように、この愛染院が練馬大根と縁の深い地だということが見えてきたところで、いよいよ大根碑の登場です。富士街道からの参道入口に、こんなにもでかい必要があるのかと思うほどに大きな碑が、しかも2つ並んで建っています。



向かって左が練馬大根碑(昭和15年建立)、右が鹿島安太郎顕彰碑(昭和41年建立)です。

そもそも練馬大根がどのように生まれたのかというところからお話すべきでしょう。先の練馬大根碑に拠れば、綱吉と練馬の百姓又六が関わっているという伝説が披歴されています。しかし、そこに明確な根拠はなく、だからと言って、火のない所には煙は立たないの譬えにあるように、無下に斥けることもないという趣旨のことが書かれています。

この辺りのことについては、練馬区ホームページに詳細に記述されています。

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/annai/fukei/daikon/daikontoha/densetsu.html>

まずは綱吉伝説についてですが、コロナ禍以前の2018年、「てる姫まつり」続く練馬の町おこし事業として、下練馬（川越街道宿場町：現在の住所表記は練馬区北町で、東武練馬駅南口周辺）で「下練馬まつり：練馬大根献上絵巻」が始まりました。その翌年も実施され、これから根付くかと思われた矢先に、新型コロナによって中断という憂き目にあっている催しです。そのチラシに掲載された由緒書きをそのまま引用します。



徳川綱吉に関わりがあり、全国的に知名度が高い「練馬大根」の発祥の伝説があります。

綱吉が将軍になる前、脚気を罹って方角や馬のつく土地が良いということで、練馬に「御殿」を建て養生をしていた。その頃尾張から大根の種を取り寄せ、土地の庄屋、金兵衛さんに作らせた。素晴らしい大根が出来、味もすこぶる良かった。綱吉の病気が治って、江戸城に戻り、後に将軍となっても、練馬の大根を献上させ、諸大名にもふるまった。やがて日本一の大根村として名声を博するようになった。

金兵衛さんは下練馬村の実在の人物です。ここ下練馬（北町）は練馬大根の発祥と深くかかわっている土地柄です。

その綱吉が若かりし頃に、脚気の静養先として、または鷹狩り時の滞在先とした地が北町にあります。当時の武士は白米を食べていた関係で、脚気はかなり広がっていたと聞いたことがあります。

右の碑は、田柄川緑道に面した、ちょうど北町小学校の北裏に建っています。東武練馬駅からすぐで、川越街道沿いで立ち寄りやすかったのでしょう。



もう1人の又六についてですが、先の練馬大根碑では、綱吉が大根を作らせたのは、金兵衛ではなく、上練馬の百姓又六という記述になっています。この篤農鹿嶋又六が実在していたことは「又六庚申塔」が現存することで明らかで、それによると、中の宮（現在の春日町3・4丁目）が発祥の地となります。「又六庚申塔」については、環八建設に伴い移設し、現在は春日町青少年館の前庭にあります。

もう少しじっくりと腰を据えて練馬大根については調べる価値がありそうですが、マニアックに過ぎて嫌われそうなので、ここらでやめておきます。

最後に、鹿島安太郎翁について、少しだけ触れて終わります。戦前、バイアス病の影響で練馬大根の栽培が一気に廃れてしまっても、彼だけは春日町でずっと練馬大根を育てその採種を続けていたのだそうです。そのおかげで現在も貴重な種が保存されているということです。どの世界でもそうですが、こういう一途な人のおかげで世の中は成り立っているということです。



(終)